



▲北見赤十字病院
第一産婦人科部長 水沼 正弘 (みずぬま まさひろ)氏

地域周産期母子医療センターとして総合病院の力を活用

〈北見赤十字病院 第一産婦人科部長 水沼 正弘氏

医師も看護スタッフも

チームワークでお産に携わる

オホーツク地域の地域周産期母子センターとして診療にあたる北見赤十字病院の第一産婦人科部長水沼正弘氏にお聞きしました。

(聞き手／田村友朗)

—この5月から周産期対応ドクターカーの運用が始まりましたが？

水沼 北見市周辺では年に1・2例ほど車中分娩に至る妊婦さんが見られます。遠方にお住まいの妊婦さんの車中での出産というハイリスクな状況を解消するため、周産期ドクターカーの運用は妊婦さんには朗報だといえます。と同時に産婦人科医の立場では通常の救急車では対応が難しい状況の赤ちゃんの緊急治療ができる保育器や人工呼吸器などを備えたドクターカーの運用のメリットは大きいと考えています。

—最近のお産にはどのようなお考えをお持ちですか？

水沼 まず年齢ですね。おそらく20～30年前に比べると初産の妊婦さんの年齢が

格段に上がっています。女性の初婚年齢はおそらく20代後半、28～29になっていて初産の年齢も30代半ばに突入している状況だと思います。分娩の適齢期は生物学的には20代だといえます。しかし現実には女性の社会進出や経済状況など、社会環境がこれを許さなくなっています。女性の社会進出は必要なことですが、それに伴い初産の年齢が上がると出産のリスクも高まります。30代後半の初産にはそれなりのリスクが伴います。

—身体的な問題ですか？

水沼 当然それもあります。生殖に適した年齢がある中で、30代後半になると、20代の方に比べると妊娠できる可能性そのものが減ってきます。40代を超えて自然妊娠できる人は5%位、体外受精でも30代の人と40代の人とは格差があるといわれています。年をとればとるほど卵巣年齢も老化し、妊娠そのものも難しく、妊娠した後の途中経過、分娩もリスクは高まってきます。

—妊婦さんが他の病気を発症した場合も産婦人科で対応ができるものでしょうか？

水沼 他の診療科と協力して対応することになります。何年か前に脳出血を起こした妊婦さんが関西の方で

お亡くなりになった事例がありましたが、日本有数の周産期センターがあったとしても脳外科医がいなければ対応できません。産科的合併症にはいくらかでも対応できるのですが、内科系の病気だと脳神経、外傷とかにプラス妊娠となると普通の周産期センターでは対応しきれないのが現実です。かえって当院のような総合病院の方が対応が可能です。当院にはいろいろなトラブルで妊婦さんが飛び込んできますがお断りはしない。脳出血で来院して一週間も意識がなかった妊婦さんもありましたが助かっています。産婦人科だけの力ではなく脳外科があり、麻酔科があり、内科、外科、整形外科等の診療科がありみんなで妊婦さんを助けようとする体制が取れるのが総合病院の強みだと思います。

—周産期センターとしては北見赤十字病院は医療環境が整っているといえる訳ですね？

水沼 母子センターは極めて高度な超未熟児治療や産科的な合併症による大出血にも対応はできるのですが、小児外科はあっても大人の外科はないなど機能が特化しています。そういう意味では当院には総合病院の強みがあります。分娩は常に何が起こ

るかわかりません。そんな時に総合病院としての総合力が発揮される訳です。

——最近の傾向は？

水沼 糖尿病合併の妊婦さんが多く、内科の先生には特にお世話になっていきます。糖尿病合併妊婦は本当にハイリスクで、厳格な血糖値コントロールが必要のため内科の先生の協力が欠かせません。妊娠中は糖尿病が悪化するようなホルモン環境になっていて、それまで顕在化してこなかった糖尿病傾向が表に出てきます。表に出ると赤ちゃんにもお母さんにもリスクが増えるので注意深い治療が必要になります。

——助産師さんがたくさんいらつしゃいますね？



助産師長 早坂 文枝さん



助産係長 高見 淳子さん

早坂 母親さんもおちゃんも元気に出産を終えられるように関わっています。
水沼 助産師さんや看護師さんは母

子の健康を考え適切に指導を行っていると思います。

——出産時の病院選びもリスクに対応できる体制が整っていることが大切だということですね。

水沼 患者さんにとっても安心ですが、実は働いている我々にとってもありがたい。24時間常に小児科医がいることで赤ちゃんに何かあればすぐ駆けつけてくれる体制が整っている安心感は何者にも代え難い。当院の副院長は新生児の専門医ですが、「百回呼ばれて、その内1回しか役に立たなくても駆けつけるのが医師の役目だから呼べ」と言ってくれます。そんな精神が院内に浸透していますね。

——スタッフ同士の連携も良いですね。

水沼 それが大事だと思います。ここでは大学からのローテーションで来る若い医者も、周産期センターのありがたみを感じているはずですよ。同時に新しい風、大学ではこんなことをやり始めているとか、実際に経験した人間が来ることで新しい知識の交換にもなり、大切なことです。

——地域全域から患者さんを迎えられる背景には総合病院としての力が必要だということですね。

水沼 病院は最新の設備と人員が

整っていればいいというものではないと思います。基本的にはチームワークだと思っています。医者同士もそうだし、看護スタッフも含め風通しが良くないと良い医療には結びつかないと思います。そのあたりのチームワークづくり、システムづくりが大事です。

——入院病棟は？

早坂 長期に渡って入院生活を過ごされる妊婦さんがたくさんいます。担当のスタッフが責任を持って、母子ともに安全に安心してお産が出来るように一人一人に対してベストな支援方法を毎日話し合い、妊婦さんに寄り添ったケアを行っています。その中で迷った時には産婦人科医や小児科医に相談すると必ず来てくれます。先生方がそばにいますので私たちも心強いですね。

——産婦人科外来は？

高見 妊娠中は無事にお産ができるだろうかと不安になります。また、さまざまな妊婦に伴う様々な症状に悩まされることもあります。外来では妊婦健診の度にスタッフが快適なマタニティライフが過ごせるように個別に対応させていただいています。

水沼 どんな医者だって一人ではダメですね。私も含めて考えが者詰まっている確かな判断・指示が出せないことも

あります。こういった状況や緊急時の応援を踏まえ、必ず2人体制を整えています。私がおこにきてからの約20年間で妊婦さんの死亡は一例もありません。ということはハイリスクの患者さんを当院で全て引き受けている訳ですからこの地域の妊婦死亡が一人もいないということ。我々は誇りに思っています。北海道の周産期の死亡率はこの地域は旭川・札幌より低く、重症の超未熟児もこの地域で診て治療に当たって

いて治療成績は全道でトップです。そういう意味ではこの地域がお産に適していると自負しています。妊娠・出産に関するお問い合わせは

北見赤十字病院 産婦人科外来
TEL 0157-24-3115

出前講習受付中

～講習の組合せは自由！～

ご希望の時間・場所に赤十字指導員を派遣します。

※概ね10名以上のグループが対象です。※開催の2ヶ月前までにお問い合わせください。※赤十字関係団体、町内会等は指導員の派遣経費は無料です。※教材費がかかる場合があります。

《救急法講習》

●救命コース 8月11日(日)

●応急手当コース 7月27日(土)・28日(日)

※応急手当コースは「救命コース」の認定証をお持ちの方が受講できます。

《健康生活支援講習》

健康な生活を送るために必要な知識・介護全般

●支援員養成講習

8月3日(土)・4日(日)

《幼児安全法講習》

●短期講習 小児救命コース

7月28日(日)

お問い合わせ／北見赤十字病院 事業課
TEL 0157-24-3115(内線1298)